

SilverFrost 目次

| | |
|-------------------|---|
| Trac-ja について | 2 |
| Trac の I18N 対応状況 | 2 |
| Environment | 2 |
| リポジトリブラウザ | 2 |
| 添付ファイル | 2 |
| コンソール | 2 |
| メール通知 | 3 |
| Trac の L10N 対応状況 | 3 |
| コンテンツ | 3 |
| チケット属性名 | 3 |
| チケット属性の値 | 3 |
| テンプレート | 3 |
| Wiki ページ | 3 |
| Trac のバグ | 4 |
| Trac-ja で修正しているバグ | 4 |
| 修正していないバグ | 4 |
| セキュリティ上の注意点 | 4 |
| Wiki マクロ の導入 | 4 |
| コメント Spam 対策 | 4 |

Trac-ja について

このファイルは Trac のオリジナル配布物には含まれません。

Trac-ja は Trac の日本語ローカライズバージョンです。

Trac の I18N 対応状況

Trac はオリジナル配布物のままでも、日本語を使用することができます。

Trac の内部では ([0.10](#) 以降) Python の 'Unicode' 形式で文字列を処理し、 Web の表示は UTF-8で行われるため、 (対応するフォントがあれば) どのような言語であっても取り扱うことができます。 (See: [TracUnicode](#))

[Environment](#)

[バックエンドのデータベース](#) には UTF-8 でデータ (Wiki ページ, チケット) が保存されます。

添付ファイルはデータベースに格納されません。 Environment の attachments ディレクトリ配下に、 URL エンコードされたファイル名で保存されます。ブラウザが URL エンコードに UTF-8 を使用していない場合、ファイル名が文字化けすることがあります。また、ファイル名に日本語を使用すると 1 文字あたり 9 バイトに展開されるので、日本語 20 文字程度でファイルシステムが許容するファイル名の長さの上限に達してしまうので注意してください。

[trac.ini ファイル](#) 他、Environment に配置するファイル ([カスタムテンプレート](#) や [Wiki マクロ](#) など) は、 UTF-8 で作成してください。 BOM (Byte Order Mark) が付いていると動かないことがあります。 Windows のメモ帳 (NOTEPAD.EXE) で編集しないようにしてください)

[リポジトリブラウザ](#)

今のところ Trac が正式に対応している [バックエンドのバージョン管理システム](#) は、 Subversion だけです。 [Trac Project の開発ブランチ](#) や [Trac Hacks](#) などには、他のバージョン管理システムを使うためのプラグインがありますが、動作状況等未確認です。

バージョン管理下のファイルは、 MIME Viewer という機能で HTML 変換し、リポジトリブラウザに表示されます：

1. [trac.ini ファイル](#) で render_unsafe_content が false (デフォルト値) に設定されていれば、安全なファイルだけが Web ページとして表示され、それ以外のファイルはダウンロードへのリンクが表示されます。 true に設定されていれば、表示可能な全てのファイルが Web ページとして表示されます。
2. svn:mime-type 属性もしくはファイルのサフィックスが、画像のように表示可能なバイナリファイル形式の場合は、 要素として表示されます。
3. 表示できないバイナリファイル (application/octet-stream 等) の場合は、ダウンロードへのリンクが表示されます。
4. バイナリファイルと判別されない場合、テキストを HTML に整形します。
 1. ファイルに設定された svn:mime-type 属性が text/html; charset=utf-8 のように charset= を含む場合は、その文字コードでファイルを読み込みます。
 2. ファイルに BOM (Byte Order Mark) が付いていれば、適切な UTF でファイルを読み込みます。
 3. ファイル個別に判定できない場合は、 [trac.ini ファイル](#) の [trac] セクション default_charset オプションに指定された文字コードでファイルを読み込みます。このコンフィグの初期値は、 cp932 (日本語版 Windows で通常使われている文字コード。オリジナル配布物では iso-8859-15 である箇所にパッチしています) なので、 UTF-8 や EUC-JP などの文字コードを使用する場合は、同コンフィグを変更してください。

Python 2.3 配布には、日本語だけで使用されている文字コード (cp932, shift_jis, euc-jp など) の codec が含まれていません。これらの文字コードを使用したい場合は、別途 [JapaneseCodecs](#) をインストールする必要があります。 Python 2.4 配布では、 JapaneseCodecs が同梱されています。

添付ファイル

添付ファイル表示もバージョン管理下のファイルと同じく、 MIME Viewer が行います。

ただし添付ファイルでは、 (svn:mime-type 属性のような) ファイル毎の文字コード指定はできないので、 BOM による UTF の判別ができなければ、 default_charset に指定した文字コードに固定されます。

[コンソール](#)

[trac-admin コマンド](#) の入出力では、使用するコンソールの文字コードが自動判別されます。 ([0.10](#) 以降)

メール通知

Trac が送信するメールは UTF-8 が Base64 が quoted-printable で 7bit-safe な形式にエンコードされています。MUA がこれらのエンコードに対応していない場合、文字化けする可能性があります。(See: [TracNotification](#))

Trac の L10N 対応状況

オリジナル配布ではユーザ入力以外の表示メッセージは全て英語です。これを日本語化した手順を記述します。

コンテンツ

入力内容はオリジナル配布物でも日本語を使用できます。[前項](#) の通りです。日本語化作業で変更した点はありません。

チケット属性について付記します。

チケット属性名

チケット属性の名前は、ほとんどの画面で何もなくても日本語の属性名が表示されるようになっています。例外は [TracReports](#) の検索結果画面です。レポートの検索結果画面でのチケット属性の列名は、検索に使用した SQL の列名がそのまま表示されます。ですので SQL の SELECT 句で AS を挿入すれば、列名を日本語化することが出来ます。0.11 以降、デフォルトのレポートのカラム名は日本語に変更しました。アップグレードした Environment で日本語のレポートを使用したい場合は、[TracReports](#) を参考に更新してください。

チケット属性の値

チケット属性の値は、データベースにそのまま保存されます。データベースには UTF-8 であれば保存できるので、リストボックス形式の属性は [trac-admin コマンド](#) で日本語に変更可能です。たとえば分類のデフォルトは defect, task, enhancement ですが ■■■■, ■■■■, ■■■■ のように日本語に変更することができます。とは言え、プロジェクト毎に必要な用語は異なるでしょうから、Trac-ja では翻訳対象としていません。

0.11 から [TracWorkflow](#) が導入され、チケットのステータス (Status) も日本語化できるようになりましたが、同じ理由で Trac-ja では翻訳対象としていません。また new と closed のステータスは依然ハードコードされており、日本語化すると動作に不具合が起きます。ワークフローを変更するときは、チケットの初期ステータスは new に、終了ステータスは closed にするようにしてください。

アップグレードした Environment でワークフローを変更する場合、trac.ini ファイルを変更しても、すでに存在するチケットのステータスは書き変わらないことにも注意してください。

テンプレート

0.11 からテンプレートエンジンが ClearSilver から [Genshi](#) に変更され、一部のテキストについては gettext での多地域化を前提に実装されるようになりました。しかし、カタログ抽出や表示言語セクタとなるコンポーネントである [Babel](#) の組み込みは、次のメジャーリリースである 0.12 に持ち越されており、ローカライズ対応は開発途中の状態です。

このような背景もあり、以下の要領で翻訳を行いました:

1. Babel は開発中であるため、依存関係を構築しない。
2. Babel を使用しないと Python コード以外の箇所からカタログ抽出できないため、gettext も使用しない。単純なディクショナリを使用する。
3. gettext-marker が付いていないメッセージのうち、単純ものは gettext-marker を付与して dictionary で日本語化する。
4. HTML
 - タグがネストしていたり、同じ単語でも使用している意味が違っていたり、分割メッセージを組み立てて表示している複雑なメッセージは翻訳を直接パッチする。

trac/util/translation.py のディクショナリを変更すれば、表示メッセージを変更することができます。

Wiki ページ

Wiki ページとして同梱されているオンラインマニュアルは、trac/wiki/default-pages ディレクトリにあるファイルを翻訳すれば地域化することができます。

0.11 から Wiki ページ単体でもオリジナル配布物に使用できるように、翻訳方法を変更しました。Trac-ja から Wiki ページだけを使いたい場合、trac-0.xx.x-ja-x.zip を展開し [trac-admin コマンド](#) で、wiki import してください。

また、[0.12](#) では [新しいヘルプシステム](#) が予定されています。

Trac のバグ

Trac-0.11 のオリジナル配布に存在するバグについて記載しておきます。

Trac-ja で修正しているバグ

日本語環境で Trac を使用するために必要な、最小限のパッチを行っています。

- LC_TIME にマルチバイト文字が含まれるロケールを使用すると、タイムラインやマイルストーンでの日付入力エラーになる。(See: [#2182](#))
地域化ライブラリ [Babel](#) での解決が [0.12](#) で予定されていますが、現時点では開発バージョンも含めて対応されていません。
日付が入力できないと実用上の問題が大きいため、デフォルトの日付書式を `%x %X` から `%Y/%m/%d %H:%M:%S` に変更しています。

修正していないバグ

これらのバグは、今後のオリジナル配布物のリリースや、Trac-ja のリリースで解消されるかもしれませんが、現状では修正されていません。

- [InterTrac](#) で `diff:` リンクを使用すると、リモートサイトでエラーになる。
 - カスタムクエリで検索条件をすべて外した状態にすると、ページ化が行われないことがある。
 - カスタムクエリで表示項目に説明 (`description`) や、複数行テキスト (`textarea`) のカスタムフィールドを含めても、CSV や TSV の出力には含まれない。
-

セキュリティ上の注意点

Trac を使用する上でのセキュリティ上の注意点です。

[Wiki マクロ](#) の導入

[Wiki マクロ](#) では、受け取った引数を表示に含める場合、サニタイズを行わないと脆弱性の原因になります。

サニタイズの実施は各マクロで行う必要があります。Trac および Trac-ja の配布に含まれるマクロではサニタイズが行われていますが、マクロを自作する場合や、[Trac Hacks](#) 等からマクロを導入する際には、各自で確認してから使用するようしてください。

コメント Spam 対策

Trac を標的にしたコメント Spam が発生しています。

Public に公開する Trac では [パーミッション](#) を適切に設定したり、[Trac Project の Wiki ページ](#) を参考に [SpamFilter](#) を導入するなど、対策を怠らないようしてください。

See also: [TracInstall](#), [TracUpgrade](#)